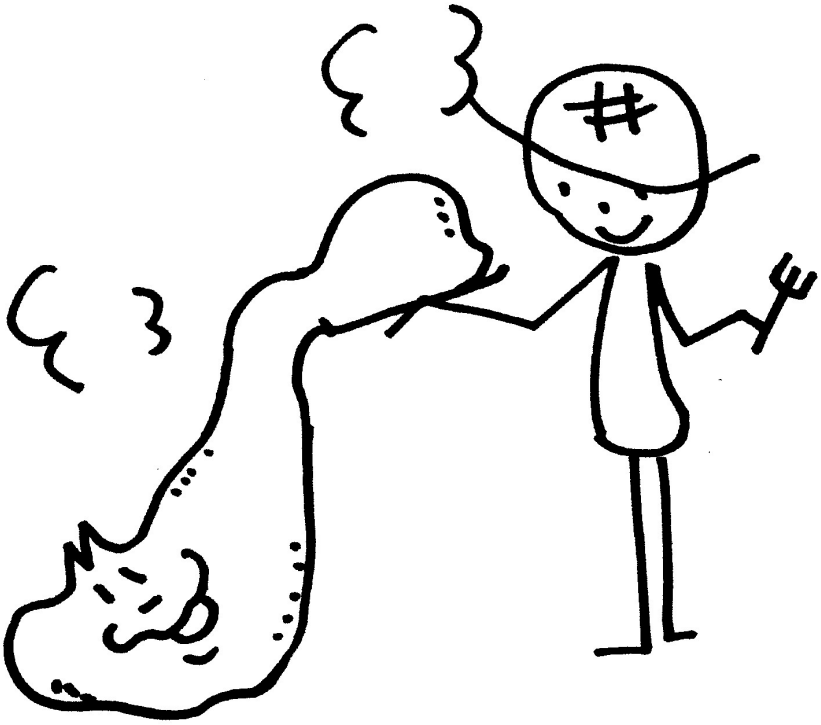
上田地域もの・こと交換制度
蚕都くらぶ

ま～ゆ

蚕都くらぶ・ま～ゆ会報

No.43

2008年9月10日発行



わたしたちの願い

蚕都くらぶ・ま～ゆという上田地域通貨モノコト交換制度は、地域で暮らすひとびとがお互いに助け合って楽しく暮らすための制度です。

私たちは、この地域の豊かな自然やひとびとの知恵・技術・経験・人柄を地域の宝と考えます。その宝を活用することで、より豊かな地域と人間関係を目指しています。

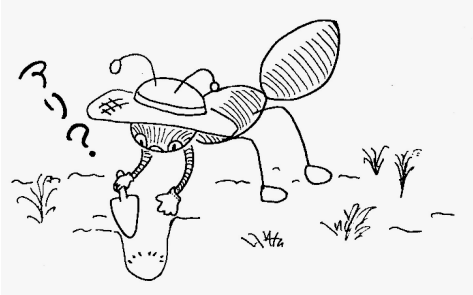
蚕都くらぶ・ま～ゆは、地域通貨を使って人と地域をつなぐシステムです。

- ❖ 人と人との新しい関係が生まれます。
- ❖ 自分の能力を再発見できます。
- ❖ 人が活き活きすることで、地域が元気になります。

ジャガイモ掘りとジャガパー

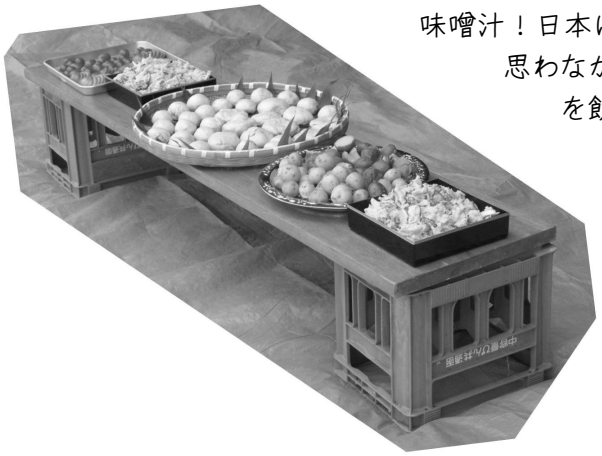
孫　麗娟（長野大学・研究生）

早起きは辛いけど、ジャガイモ掘りはやはり楽しみしていた。出かけた時は畑仕事の好天気で、曇って涼しかった。よかったと思っていた。しかし、イモ畑に着くと、太陽は雲を掻き分けて主役になった。この状態は一日中続いた。早くイモを掘って帰れると思っていた。子供の時、イモ掘りの経験がある。その時のことを少し覚えていて、なぜこの茎の下にこんなものがあるのかと考えていた。今はわかるけど、今度は茎がない！！草だけだった。まるで荒廃地みたいなところ、まさかイモが存在するのか？聞いてから分かった。茎は枯れていた。なるほど！



イモ掘りが始まった。日本に来て、いろいろな農機具を見た。中国のとは違って、小さいし、形はいろいろ。今度のも初めて見た。ちょっと重そうだけど、やはり大変役に立った。ゴンベエさんは機械を運転して、私たちは籠にイモを拾った。土が硬かったから、機械は深く掘れなかった。イモも小さくて少なかった。みんな笑いながら、「これはイモ掘りじゃない、イモ探しだ」って言った。やっと、みんなジャガパーに十分だって言った時、籠を見て、あまりたくさんとは思わなかった。じゃ、ジャガパー楽しみ！

三日後の日曜、須川のグラウンド。みんな早く着いたようで、忙しそうな光景だった。さあ、日本料理を勉強するいいチャンスだよ。さっそく手伝おう！スーパーで売っているアズキ饅頭はこうやって作るのか。長野の共通料理のナスお焼きも作れるようになった。最後はポテトサラダ。ジャガイモの皮を剥くほかに、手伝おうと思っても手伝えない私たちは見るしかできなかった。出来上がった！「そこにずっと見ている人、手を出して」って言われると、喜んで手を出した。おいしかった！ジャガイモでこんな料理もできるのか。今度自分でやってみようと思った。



ジャガパーの用意はすべて整って、パーティーが始まった。とりあえず味噌汁！日本に来て、地味に見えるスープがこんなにおいしいとは思わなかった。今度の味噌汁もおいしかった。そして、味噌汁を飲んでいた時、その表面に木の影があった！これは一番のおもむきだと思った。たくさん食べたかったけど、おなかはすぐいっぱいになった。一番きれいと思ったのは梅で作ったゼリー、透明でピンクだった。

楽しい時はいつも短かった。いい思い出と一緒に持ち帰ったのは、余った料理……。夕方、おやきをカバンから出した時、周りの人はみんなびっくりした。

「楽しもう地域活動交流会」に参加して

№1 ケイちゃんこと 安 井 啓 子

7月21日に「第2回楽しもう地域活動交流会」が塩田公民館を会場に開かれました。
20数団体、80名ほどが参加しました。
「ま～ゆ」からは、ごんべえさん、都々平さん、大野満里子さん、私の4人で参加しました。

この会は、地域活性化、環境保全、ボランティア、まちづくりなど様々な活動をしているNPOや市民団体、グループが一同に会して、お互いの活動を紹介し、つながりを深め合うことを目的にしています。

ホールの壁には、活動紹介パネルが張り出され、それぞれの団体の個性をアピールしていました。

はじめに、参加者が二重の輪になって自己紹介ゲームをしました。見知った顔もたくさんありましたが（ま～ゆ会員も）初めての方も多く、新たな発見もありました。

その後は、各団体が3分間スピーチで活動紹介をしました。これが思った以上に話せないものですね。（あらかじめ準備していなかった私が悪いのですが・・）例のごとくその場の思いつきでやってしまい反省！

地域には多様な活動をしている団体が本当にたくさんあります。その目的はそれぞれですが、共通しているのは、自分たちの手でよりよい地域や暮らしを創っていこうという熱い想いだというのを改めて感じました。

蚕都くらぶ・ま～ゆが、このような団体とどんな関係が作れるかは未知数ですが、猛暑に参加者の熱気がプラスされ、暑い熱い一日でした。

7月13日　生ビール大会

納涼夏まつり

　ま～ゆ・生ビール大会に参加しました！
会場の吉崎酒店さんは我が家から歩いていける距離。なんといってもこれが迷わず参加を決めた動機でしょう～。
　少し遅れていってみるともう皆さん盛り上がっておられるご様子。
早く追いつかなくてはとビールコーナーに何度も通いました！
　そして、<ま～ゆ名物・歌の時間>が始まり、ごんべえさんの司会の下、次々と自慢ののどが披露され、おしゃべりがはずみ、勢いが止まらない人たちでスタジオ101(カラオケ）へくりだしたのでした～。
　この日最後まで息子ハルノスケ（7才）はエンジョイしましたが、次の日の朝やっとの問いで起きて学校へ行ってくれたので、母はゆっくり二日酔いを癒せました（笑）！

№226 **のだま**こと **藤川まゆみ**

前列右から二人目が私です

お祭りオトコ！
いっしゅうさん

タマムシもびっくりの“玉虫色”

教育有識者会議の提言書

奈良ホテルで若草山を眺めていたら、窓の外で盛んに虫が飛んでいる。方向音痴の一匹が飛び込んできた。金や緑、虹を思わせるタマムシだ。法隆寺の玉虫の厨子でおなじみの昆虫だ。

私は、上田市の教育有識者会議の一員として、市場原理の教育への導入を目指す人達と激論を重ねてきた。有識者会議の戸田座長は、８月１日しよう市長に提言書を提出した。

席上、戸田座長は、学校選択の自由と学校利用券（バウチャー）制度については、完全に玉虫色だと胸を張った。特に意見が対立した学校選択性について、提言書を分析してみる。提言書は前半に賛否両論を併記した後、次の様に提言している。

㋐ 学習者起点の視点に立つ限り、本会議としては学校選択の自由を保証すべきと考える。全域での自由選択か、地域、範囲限定かも含め、導入の是非について、メリット、デメリットを考慮し検討することが望ましい。

㋑ 導入の是非については、結論を性急に出すことは控え…（中略）…引き続き慎重な検討を続けるべきとの意見があった。

ア・イともに、表現は異なるが導入検討を促す内容である。玉虫色にはほど遠い。昆虫に例えれば、片方の羽は真っ黒、もう一方も「限りなく黒に近いグレー」。タマムシはいつのまに、“ゴキブリ”にされたと怒っている。

信濃毎日新聞　８月２日掲載

提言書は、委員全員の最終確認もないまま座長独断で提出された。私は会議発足以来、多くの市民と対話をしてきたが、ほとんどが、学校選択とバウチャー制度には反対か疑問を持っている。多くの市民と逆方向の結論は、地方自治そのものの信頼を裏切るものである。上田市の教育が本物のタマムシのような輝きを見せるようになるには、市民１人１人が教育に関心を持ち、発言し行動することが大切だ。

上田の教育有識者会議 異議残し提言書

制度頼らぬ取り組みを

「競争原理」に根強い反発

上田市の教育行政のあり方を考える有識者会議（十四人）の戸田忠雄座長が一日、一年七カ月に及んだ議論の内容をまとめた提言書を母袋創一市長に提出した。同じ日に、委員の半数に当たる七人が「抗議意見書」を市側に提出したことは、教育現場が抱える問題を競争原理の導入で解決する手法に、根強い反発がある実情を示した。制度導入に頼らず、いじめ問題に丁寧に対応するといった地道な取り組みがまず必要になる。

【5面参照】

抗議意見書を読み上げる清水卓爾委員（左から２人目）

昨年一月に発足後、十四回の会議では「学校選択」「学校利用券（バウチャー）」「教員評価」の三制度の議論に大半の時間を割いた。いずれも、戸田座長が代表を務める市民団体「21世紀教育制度研究会」が導入を目指している制度。母袋市長は初回会議で、地域と学校との関係や教育委員会制度への提言に加え、この三制度を「想定される検討事項」として示した。

このため、議論は上田市の教育の現状から離れ、制度の是非論に流れがちだった。会議では「制度議論の前に、問題を解決する方法がないか探るべきだ」との意見も出たが、戸田座長が「市長から与えられたミッション（任務）」と退ける場面が度々あり、「制度導入ありきでは、と感じた」（清水卓爾委員）と不信感を生むことにもなった。

抗議意見書に署名した佐藤智恵子委員は「地域と学校がどう協力すれば子どもたちのためになるか議論できなかったのが残念」と話す。

また、議論は最終会議までにまとまらず、電子メールのやりとりで提言書原案を修正する異例の事態になった。再度の会議開催を求める委員が複数いたが、結局開かれず、反発が強まった。

いじめへの対応で、教育関係者に地域住民も含めたチームをつくることや、教育委員会に対して議事録の公開徹底を求めるなど、大筋で合意が得られた提言もある。市と教育委員会、学校関係者、子どもたち、地域住民が上田市の教育現場が抱える問題を共有し、一つずつ解決することが求められる。

（祢津　学）

（一寸の虫にも五分の魂、ニックネーム昆ちゃん・№35 清 水 卓 爾）

ま～ゆ長屋の縁台ばなし

今回のテーマ

“まつり”

アメリカ生活で体験したまつり

№183 金井 ふかちゃん

ジョージア州アトランタ近郊で暮らした時に経験したまつりでは、国の歴史に関わる７月４日の独立記念日（インデペンデンスデイ）、5月第1月曜日の戦没者追悼記念日（メモリアルデイ）、11月第4木曜日の感謝祭（サンクスギビングデイ）があり、キリスト教に関連した祭では12月25日のクリスマスを筆頭に、3月～4月の復活祭（イースター）、10月31日のハロウィンデイ、また民族特有の祭では1月第3月曜日のアフリカ系黒人が中心となる黒人解放運動のマルチンルーサーキング牧師の誕生日、3月17日のアイルランド系移民のセントパトリックデイ、3月中旬に住宅街の通りが20万本のソメイヨシノのトンネルとなるメーコンの桜祭、9月のアトランタの日本祭（ジャパンフェスト）、7月のネイティブアメリカン中心にとんがりテントの林立する広場に集まるランデブーなどがそれぞれとても印象的でした。

これらのまつりを通してアメリカの素顔に触れた感のあるエピソードを3つ紹介します。

その1、
インデペンデンスデイに米人のパートナー経営者Gさんに招待されてバーベキューパーティーに行った時のこと、中央にプライベートゴルフコースがある約2km四方のレンガ塀で囲まれた区画の中に大きな家が点在し、入口には守衛のいるゲートがあり、訪問先を告げて電話で確認したあとで、ゲートを開けてくれて車で乗り入れるシステムでした。

Gさんの家族と落ち合い会場のクラブハウスに入ってみたら、100人程の人達がすでに飲んだりバーベキューを食べたりしていましたが、有色人種は私と一部のウェイターのみでびっくりし、また何人か紹介された人達はそれぞれビジネスで成功したリッチな感じの人ばかりです。酒、食べ物、暗くなってからの花火などとてもよかったのですが、居心地はあまりよいものではありませんでした。法律で人種差別が禁止されて久しいのに、有色人種が入り込めないコミュニティがまだあることを実感しました。

その2、
別の年のインディペンデンスデイに日本人駐在員のA君と会社近くの湖で行われた花火大会を見に行った時のこと、花火は2000発程度でしたが見物人の乗りのよさが印象的でした。花火が終わり広大なスポーツ広場の臨時駐車場で出口渋滞により動きだすのを待っていたら、前の車のトランクが開きおじさんが下りてきて折りたたみ式の車椅子を出して広げ押して行く先を見ると足にギブスを巻いた若者が姉らしい人の肩にすがってよろよろと歩いていました。おじさんは若者を車椅子に乗せ彼らの車の方へ押していき、しばらくしてもどってきたら前の車から2人の幼い男の子がでてきておじさんが車椅子をしまうのを手伝って一緒に乗り込みちょうど動き出した列に追従していきました。私とA君はとても自然でなにげない行動に見とれておりました。

その3、
アトランタに行って最初のハロウィンデーに出社したら、経理部長は真っ赤な顔に大きな目玉と口のモンスターの顔を着ていて、マネジヤーは片目の海賊、担当の女性は金色のボディに△の白目と黄色の歯の抜けた口のついたかぼちゃのお化けのワンピース、また営業部の女性は体の線が丸見えの肌色のボディースーツに足首まで届く金色の髪をつけたコスチュームで来ていて、つい制服姿の私も一緒に写真を撮ってもらいましたが、一日中この姿で仕事をしていました。いい年をしてみっともないとの感覚でなく、まつりを目いっぱいエンジョイするとの気風を他の場面でも多く感じたものです。

秋 祭 り

№159 宮 坂 潤 子

♪♪♪ 村の鎮守の神様の 今日はめでたいお祭り日・・・ ♪♪♪

私にとって祭りの思い出は、50年以上も前になりますが、この歌のような村のはずれにある小さな神社の「秋祭り」です。

参道の入り口にある鳥居に大きなのぼり旗が立ち、神社の境内には1つか2つの出店が並び、普段は今の子供のようにおもちゃなど買ってもらえませんが、秋祭りは小遣いがもらえる唯一の日ですので うれしくて10円玉をいくつか握りしめ、おはじきやビーズの首飾りを買い、宝物のように大事にして遊んだものです。

毎日、朝早くから夕方まで田畑に出て働いていた父母もこの日ばかりは休み、ゆっくり過ごしており、お祭りは実りの秋を喜び、日頃の疲れを癒し家族皆が元気で過ごせたことを感謝した日でもあったと思います。

そんな小さなお祭りですが、伝統芸能の「三頭(みかしら)獅子」と「ささら踊り」が伝承されており、特別な年には賑やかに舞われています。7歳くらいの時、いつもの年とは違い神社の境内に大勢の人が集まり、獅子舞が奉納され、私達子供は色とりどりの三尺帯をたすきに結わえてもらい、笛と太鼓の音に合わせながら ささらと呼ばれる竹でできた楽器(?)をすり合わせて音を出しながら踊りました。「ささら踊り」です。

私が踊ったのは、この時１回だけですがいつまでも心に残る懐かしい秋祭です。

室賀温泉「ささらの湯」は、隣にある「水上神社」に伝わるささら踊りから名づけられたものです。

忘れられない祭「盆踊り」

№215 **つゆくささん**こと **山 内 春 美**

小学生の頃、夏休みになると、母方の実家によく泊まりに行った想い出があります。熊本県山鹿市という所で、紙細工が盛んで伝統工芸となっており、見事な作品が市内のあちこちに展示されています。

町の中にある大きな神社を核として祭り事が進行していき、裏手の広場に大きな「やぐら」が組まれ、その周りを幾重にも輪を作り、あたりがうす暗くなると「千人灯籠踊り」が始まります。女性の頭上に紙で作った、真ん中に小さな灯をともした灯籠をのせて踊ります。その姿がとても優美で幻想的で忘れられません。おそらく千人近くの数で踊るためこの名がついたと思われます。その昔はろうそくをともしたのでしょうか？踊りの歌詞の中に「よへほ、よへほ」という言葉が出てくるのですが、未だ意味を知りません。

この祭りに40年余り行っていませんが、またいつか是非行ってみたいと思っています。まだ続いている事を願いつつ…

次号のテーマは **“本”** です。

投 稿 歓 迎！

（〆切は 10 月 25 日）

あなたの胸の中にあるものを書き綴って寄せてください。

7月22日、古田恒夫さんが他界されました。ま～ゆ活動の陰の力として数々の足跡を残されていった“おやっさん”でした。

縁舎で草取りをしたり、厨房でお料理している姿が浮かんできます。寒い時にネギをたっぷり使ったスープで体を温めたり、桜の頃には手作りのお団子、お店に売っているようなツルットした物でなく、シコシコと歯ごたえのある味は絶対忘れません。

太郎山に看板を三箇所作ってもらいました。とても優しい言葉と花の絵を書いてくださいました。

感謝を申し上げて、ご冥福をお祈りします。

三井幸子

古田さんとの出会い

私が古田のおやっさんと出会ったのは、長野大学に通っていたころです。

その時、私は3年生でした。たまたま選んだ古田睦美先生の専門ゼミナールに入り、皆様もご存知の「こみっと」の活動拠点である、「縁舎」でゼミ活動をしている時でした。

最初は、「あそこにいるおじさんは誰だろう」と思っていたのですが、ゼミで自己紹介が一通り済んだところで、古田先生から直々に「私のオヤジです」と、紹介がありました。そして、ゼミの活動をしているうちに、「こみっと」に入会し、そこで古田さんと更に打ち解けることになりました。

とある日、古田さんが「ま～ゆ市に行くから乗せていってくれ」と言われ、何も知らされないまま、「ま～ゆ市」に参加しました。今思えば、それが、「蚕都くらぶま～ゆ」との出会いだったと思います。多分、その時に一緒に行っていなければ、「ま～ゆ」を知ることもなかったと思います。

古田さんとは、「ま～ゆ」以外でも、「縁舎」で一緒に食事を作ったり、温泉に行ったり、古田さんの得意としていた看板の作成をしたりしました。私が大学4年の春までに何度となく顔を合わせ、おやっさんの学生時代の話や、奥さんとの出会い、そして長野県にくるまでの経緯など、色々お聞きしました。年末年始も、「縁舎」でカウントダウンライブを行ったり、こみっとの主催する行事に参加したりと…。今ではそれがいい思い出になっています。

会報に“ま～ゆな人”を連載をした時も、おやっさんの話を聞きながらパソコンに打ち込んだりしました。

大学時代で一番同じ時間を過ごしていたのは多分、古田さんだったと思います。

私が大学を卒業し、就職してからは、公私ともに忙しく、古田さんと出会う機会が減りました。顔を合わせる機会と言えば、古田さんがたまに参加する「ま～ゆ市」ぐらいでした。

最後に会ったのは冬に行われた「ま～ゆ市」でした。私が学生時代に見ていた古田さんとはうってかわって顔色が悪く、元気がなかったのを覚えています。その時の帰り道、縁舎まで送っていったのを今でも覚えています。

それからまた月日が経ち、最近になって古田さんが入院している、という話を聞き、たまにはお見舞いに行かなければ、と思っていた矢先でした。

なんの前触れもなく、別れの時がきました。いつもは、家にかかってくる電話に出ない私ですが、たまたま都々平さんから電話が入り、受話器を取った数分後に突然の訃報を聞き、最初はなかなか受け容れられず、戸惑うばかりでした。あんなに元気だった古田さんが、なんの知らせもなく、亡くなってしまったのですから。

私が古田さんと1年ぶりに会ったのは無言の再会でした。その時の古田さんはとても笑顔で、まるで今にも起きそうな程でしたが、やはり返事はありませんでした。私は無言で古田さんに、「今までお世話になりました。そして色々な思い出をありがとう」、と伝えてその場を去りました。

鴇沢　皓一

この度は、父の葬儀にあたり、ま～ゆの皆様にたすけていただいて、たいへんありがとうございました。

父は、ま～ゆ会報に(4回も!)載せていただいたように、フーテンのダンサーで、楽しいことが大好きで、色々な珍しい体験(刑務所の慰問やヤクザやさんの宴会に連れて行かれて踊れと言われたこととか…)をした人で、なにより皆さんと楽しくお喋りをするのが大好きでした。

反面、軽～い性格、親戚随一のこまったちゃんで生家からは勘当され、家族はたいへん(私も栄養失調で生まれ極貧母子家庭状態で育ちました)でした。

晩年はお金の勘定ができない看板屋で、都会では、(自分が引き寄せていたので自業自得ですが) 騙そうとする人、お酒をたかる人の格好の餌食となって借金を抱え、やがて肝臓をやられて脳症を起こし医者から余命1年の宣告をされました。

そんな父の看護と孫の子育てを母と協力して乗り切ろうと、上田に父母が移り住むことになりました。年をとってから知らない土地に来てさぞかし不安だったと思いますが、ま～ゆの方々に暖かく接していただけて、ま～ゆ市やミステリーツアーなども楽しく参加させていただき不安は払拭されました。それから引っ越しや小屋造りも助けていただいて、ほんとうに心強く安心して暮らせたと思います。ま～ゆのおかげで都会ではまったくしたことのないボランティアも自然とさせていただき、あと1年と宣告されてから なんと6年も生きることができました(!!)。老齢者にとって、人の輪に受け入れてもらえること、いきがいがあったことがなによりも嬉しいことだったと思います。新しい住人を地域とつなげる ま～ゆの力を改めてすごいなと思います。

また、葬儀にあたっては、父の昔の写真や五平餅を焼いている楽しい写真などを展示していただいたり、お料理を持ち寄っていただいたりして父を偲ぶ場を作っていただき、皆さんに明るく送っていただきました。写真は父が病院にも持ち込んで最後まで看護師さんにみせたりしていた(笑)ものです。義理ではなくて「生前パーッとやるのが好きだったよね」なんて、その人となりを分かっている方達が集まって親父さんらしく送っていただいたのがほんとうに有り難かったです。

安曇野の夫の父親が亡くなった時、「ゆい」の五人組のご近所がおさんどんや葬儀をやってくださり、長いつき合いの共同体があるのも良いなと思いましたが、若い人にはそれは義理となり負担そうでした。それよりもま～ゆの方々がやってきて思い思いのお気持ちで送っていただいたのが、まさにま～ゆ式のやり方でこれも感動しました。属地的な「ゆい」よりも一人ひとりの思いを生かせる自発的な新しいやり方としてま～ゆのお葬式も素敵だなと思いました。

そういえば、私は地産地消の農村女性組織の研究などしているのですが、根羽村では地産地消のお齋(とき)を提供するグループもあるんですよ。生まれるときも、暮らすときも、死ぬときも、人の温かさの中で安心して暮らせるま～ゆの世界へ、私もますます可能性を感じることができた、明るいお葬式をしていただき、ほんとうにありがたかったです。

みなさまのますますのご発展をお祈りして。心よりお礼まで。

古 田 睦 美

ニックネームの い・わ・れ

ま～ゆ会員にはユニークだったり、難解なニックネームを つけた人がたくさんいらっしゃいます。 今回は ⇒

No.184 うたしこと
林　正孝さん

“うたしさん„ と聞いて顔が浮かぶ会員さんはあまりないでしょう。（似顔絵が下手でも大丈夫？） でも、去年新種のりんご「さんさ」のハブキを分けていただいて、その甘酸っぱい爽やかな味を記憶されている方は少なくないと思います。

リンゴ農家を営んでいる“うたしさん„ は、4000 坪の農地で、さんさ・王林・陽光・ふじを栽培しています。北は北海道から南は沖縄まで［うたしのりんご］を楽しみに待っているお客が年々増え続け、「おかげさまで、『美味しい』の声を励みに夫婦でリンゴ園に通っている毎日です」とのことです。

数年前まで冬場に花卉（かき）を栽培していたハウスがありますが、奥さんが「冬は休みたい」と言って、一棟だけを自家消費の野菜用にしているそうです。ここではマルチをかけて耕さない農法を試みて成功しているとか。

子供のころから「他人と違ったこと」をしてみたがる“うたしさん„ は、好奇心旺盛で、今でも（本人は雑学と言っていますが）いろいろな知識がいっぱいの勉強家です。

中でも、「宇宙を貫くありがとう」の法則を本や講演で知った“うたしさん„ は、小林正観氏にすっかり傾倒し、日頃その精神を生かした生活を送っているようです。［うたし］とは、うれしいの㋒、たのしいの㋟、しあわせの㋓の頭文字をつないだ小林正観氏のニックネームで、それを拝借したということです。

「ありがとう、ありがとうと繰り返し口にしていると、健康はおろか運命までも変化させる」とか。関心のある方はホームページで［小林正観］と検索してみてください。「この法則は環境問題にもつながっているのです」、と独得な世界観を持っている“うたしさん„ その口からは目からウロコの話がポンポン出てきます。「見えない世界に関心がある」と本人が言っているように…。

また、彼は骨董にも関心があり、日本刀を鑑定する趣味も持っています。「美術刀剣保存協会」に所属して、鑑賞はもとより名刀を（作者名から年代まで）当てる催しに参加して、専門家から説明を聞いて鑑識眼を養うのが楽しいそうです。刀を打つのは無理でも、研ぐのは自分にもできると思った“うたしさん„ は刃砥ぎセットを買ったというから、その思い入れは「半端じゃない。」 ところが、「いつかやろう」と仕事の合間を見つけているうちにどこに仕舞いこんだのか、紛失してしまったそうです。

ま～ゆ入会の動機は、「リンゴの摘果をお助けしてもらいたい」でしたが、それを発信するのをためらっているうちに、方針が変わり、（それなりの技術が必要なので）シルバー人材支援に切り替えたそうです。

「ま～ゆ市やイベントにはなかなか出られないが地域通貨にこだわらないま～ゆの動きがいい」ので、“少しでもつながっている会員”を続けていって、そのうちに会合に顔を出そうと考えているそうです。

都々平 記

ま～ゆな人　No.30　布施 教子さん

今日から・きょうちゃん・・・・・
（初対面で、早速ニックネームをつけてしまいました。）

お名前は時々拝見していましたが、お会いした事がなかったので、今回は興味津々でした。

きょうちゃんの現在・・・・

普通の主婦から、環境問題に関わり始めて２０年。その話を始めたら「時間がいくらあっても足りない」と自負するきょうちゃん。

現在、うえだ環境市民会議の一員として活躍中です。その中の環境紙芝居のプロジェクトでは“食”をテーマとした子供向け(大人にも見ごたえ十分)の紙芝居を、いずれも ま～ゆ会員の ３人と共に制作中。
10月18日の「うえだ環境フェア」で上演するそうです。

出身は上越市・・・・

先回、ま～ゆミステリーツアーで行った松之山温泉の近くで生まれ、11 人兄弟（！）の末っ子。小学校の修学旅行は新潟市へ。中学校で、京都へ。一学年 550 人の大所帯が一列車を借り切って行ったそうです。
後期の団塊世代ですね。

２０年前・・・・

市から声かけがあって、上田市で初めて消費者団体を発足させました。現在のように市民も行政も環境問題に目覚めていない時期だったので、大変だったといいます。

先ず、分別して資源にするためのゴミの回収を始めました。牛乳パックは各地域の公民館や数店のスーパーマーケットに回収箱を置かせてもらったそうです。・・・
これが、(現在当たり前になった)資源回収のはしりだったなんて。

数々の市民活動に関わっているために、家を空ける時間も多かったそうです。自費で賄う部分もあり、家族の協力が必要でした。外出前には、家事をこなし、子供さんの洋服も手作り、パンも焼きました。自分でできることは、なんでもしたのです。結果的にこれによって、家族の理解を得られたのでしょう。

そんなおり、国際婦人振興会の関係で、ヨーロッパ旅行の機会を得たきょうちゃん。そこで特に感じたことは、ドイツという国の国民性。“頑固で地に足の着いた生き方をもっている”“決めた事はきちっと守る”“物を大切にしている”ということ。「この精神が環境保護につながると思う」「その後、ヨーロッパに魅せられて旅を続けています」と話してくれました。

４０代の頃・・・・

いちばん耀いていた年代でした。上田市議会に市民派の女性議員を送り出そうと活動して、某候補の選挙事務長になり、紆余曲折の末に見事当選。初めての体験でもあって「大変苦労だったが、とてもいい経験だった」そうです。

きょうちゃんは自身を、猪突猛進で間違ったことは嫌い、家の中で何かしていることが好き、と言います。今も充分に輝いているきょうちゃんでした。

現在進行形の紙芝居に期待しましょう。ちなみに、ここに登場する 2 人の可愛いキャラクターが“かんちゃん”と“きょうちゃん”です。名前の読みからとったニックネームですが、布施教子さんには、ピッタリのニックネームを付けてしまいました。

コボル 記

ま～ゆ会員　自己紹介

名 前	№63 **杉山洋子**	№15 **みっちゃんこと 竹 内　充**
出身地	長野県	新潟県上越市御殿山町まむし(高田駅の西側) （御殿山は高田のお姫様が暮らしていたからこの名前が付いたようです。）
血液型	O	A
私って こんな人	◆大きな声・太いからだ ◆陽気な精神・常にプラス思考 ◆大雑把・こまごましたことは嫌い・家計簿はつけられない・	◆楽器の演奏と地域活動をする、ずくがありそうでなさそうな新潟から来た若者
好きなもの	◆食べ物 ： くだもの・やさい・チーズ ◆有名無名の人:世の中全体のことを考えて一生懸命に生きている人 プラス思考の人 ◆趣味 ： 音楽(聴く・歌う・たたく・弾く・演奏する) 読書・朗読・創作	◆チューバの演奏(聴くのも好き) ◆食べものはギョウザが好きです。自分でもつくります。留学生が作ったギョウザの次に自分でつくったギョウザが美味しいと勝手に思っています。
苦手なもの	◆食べ物 ： うなぎ・えび・なまぐさいもの ◆有名無名の人:陰口をいう人 自分のことだけしか考えない人 うじうじする人。 ◆仕事:早寝・早起き・勤勉・真面目・ ◆整理・整頓	◆食べもので苦手なものはない。 ◆外国人の方としゃべる事。英語やポルトガル語ぜんぜんできないので、なんだか気遅れしてしまいます。
欲しいもの	◆時間 ◆お金（とりあえず１億円あれば、あずまや高原の「らいてうの家」に管理人を置いて50年くらい運営していかれる？	◆自由になる時間と生活できるだけのお金 ◆ずく ◆コミュニケーション能力 （日本語・英語・ポルトガル語）
捨てたいもの	◆押入れやたんすの中身 ◆脂肪	ずくなしな自分
もしも生まれ変われたら	高校で放棄した化学・物理・地学を真面目に学びなおしたい。	今とは違うことをしたいです。特に何がしたいとかは浮かびません。
私の夢	世界中の国の指導者たちがみんな縁戚関係を結べば 戦争をしない国々になれるのではないかしら？	地域通貨で暮らせる世の中になったらいいと思います。地域のなにかの役割や消防団や地域活動など、地域通貨で物やサービスを受けられ,納税もできるようになったらいいなぁと思います。

吉 崎 酒 店　№126吉崎
●輸入元より直接仕入の厳選されたワイン
●和・洋酒各種・又健康に良いものいろいろ
●全商品５％まで「ま～ゆ」をお使い下さい
上田市中央3-7-7 TEL22-0300 Fax22-4525

都市・建築工房 №130ヒデさん(竹内秀夫)
●一級建築士事務所
●地元産木材を使ったローコスト環境住宅の設計料の5%まで「ま～ゆ」が使えます。
上田市御所274TEL0268-28-7532
http://www6.ueda.ne.jp/~toshiken/

ま～ゆ会員　自己紹介

名 前	№63 **杉山洋子**	№15 **みっちゃんこと 竹 内　充**
出身地	長野県	新潟県上越市御殿山町まむし(高田駅の西側) （御殿山は高田のお姫様が暮らしていたからこの名前が付いたようです。）
血液型	O	A
私って こんな人	◆大きな声・太いからだ ◆陽気な精神・常にプラス思考 ◆大雑把・こまごましたことは嫌い・家計簿はつけられない・	◆楽器の演奏と地域活動をする、ずくがありそうでなさそうな新潟から来た若者
好きなもの	◆食べ物 ： くだもの・やさい・チーズ ◆有名無名の人:世の中全体のことを考えて一生懸命に生きている人 プラス思考の人 ◆趣味 ： 音楽(聴く・歌う・たたく・弾く・演奏する) 読書・朗読・創作	◆チューバの演奏(聴くのも好き) ◆食べものはギョウザが好きです。自分でもつくります。留学生が作ったギョウザの次に自分でつくったギョウザが美味しいと勝手に思っています。
苦手なもの	◆食べ物 ： うなぎ・えび・なまぐさいもの ◆有名無名の人:陰口をいう人 自分のことだけしか考えない人 うじうじする人。 ◆仕事:早寝・早起き・勤勉・真面目・ ◆整理・整頓	◆食べもので苦手なものはない。 ◆外国人の方としゃべる事。英語やポルトガル語ぜんぜんできないので、なんだか気遅れしてしまいます。
欲しいもの	◆時間 ◆お金（とりあえず１億円あれば、あずまや高原の「らいてうの家」に管理人を置いて50年くらい運営していかれる？	◆自由になる時間と生活できるだけのお金 ◆ずく ◆コミュニケーション能力 （日本語・英語・ポルトガル語）
捨てたいもの	◆押入れやたんすの中身 ◆脂肪	ずくなしな自分
もしも生まれ変われたら	高校で放棄した化学・物理・地学を真面目に学びなおしたい。	今とは違うことをしたいです。特に何がしたいとかは浮かびません。
私の夢	世界中の国の指導者たちがみんな縁戚関係を結べば 戦争をしない国々になれるのではないかしら？	地域通貨で暮らせる世の中になったらいいと思います。地域のなにかの役割や消防団や地域活動など、地域通貨で物やサービスを受けられ,納税もできるようになったらいいなぁと思います。

吉 崎 酒 店　№126吉崎
●輸入元より直接仕入の厳選されたワイン
●和・洋酒各種・又健康に良いものいろいろ
●全商品５％まで「ま～ゆ」をお使い下さい
上田市中央3-7-7 TEL22-0300 Fax22-4525

都市・建築工房 №130ヒデさん(竹内秀夫)
●一級建築士事務所
●地元産木材を使ったローコスト環境住宅の設計料の5%まで「ま～ゆ」が使えます。
上田市御所274TEL0268-28-7532
http://www6.ueda.ne.jp/~toshiken/

11月15日(日) 総会とま～ゆまつり

中央公民館　午後１時～

（予定に組み込んでおきましょう）

これから張り切って企画を立てます。
盛り上がるアイディアを募集中！。

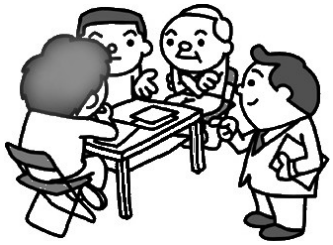
ま～ゆ田んぼの稲刈り

- 10月4日(土) 9時から12時位
- 持ち物　　稲刈り鎌、
  長靴（ぬかるんでいる場合）
  飲み物、おやつ
  昼食は希望者だけ

※空模様によっては
　変更があります。

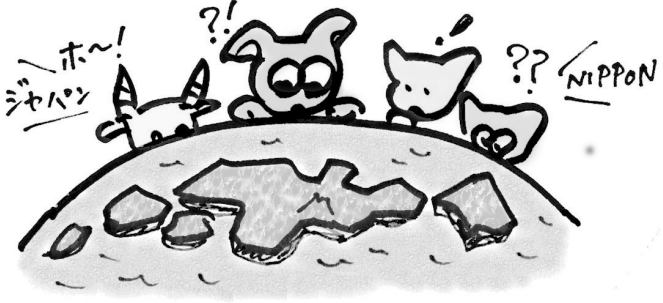
須川プロジェクト

ま～ゆ寺子屋
しっかり知りたい
裁判員制度



★ 9月19日（金）午後7時～
★ 会 場 中央公民館　2階　第1会議室
★ 講 師　　滝 澤 修 一　弁護士

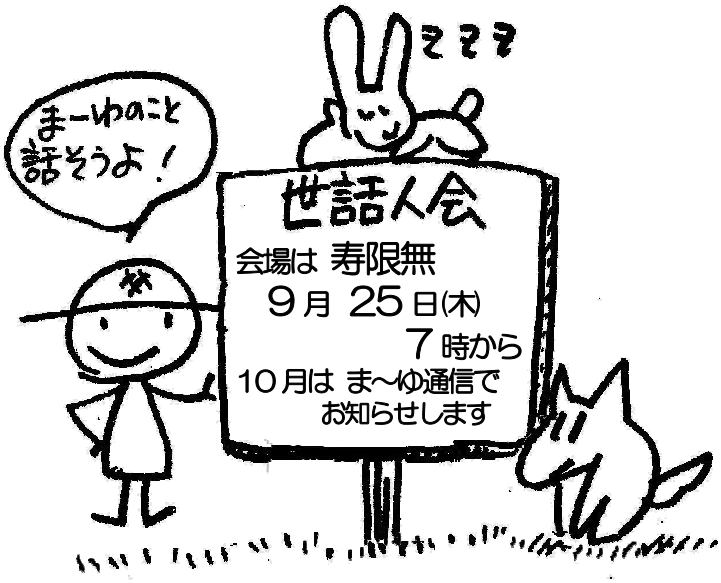
ま～ゆ寺子屋



海外から見える日本

part3

★ １０月２１日（火）午後７時～
★ 中央公民館　2階　第1会議室
★ 講師 かっとまんこと河野孝志さん



身近なところへ
紅葉狩り

11月初旬を予定

紅葉の様子に合わせて決めます

※ 詳細はハガキ通信と
ＭＬでお知らせします

代 表　　安 井 啓 子
ま～ゆ 連絡先　前 田 光 俊
〒386-0041 上田市 秋和 503-6
TEL 27-1230
ホームページ　（検索エンジンで地域通貨 ま～ゆ を開いてください）